

放射化分析分科会および放射化分析研究会総会議事録

開催日時：2014年9月13日（土）12時10分から13時

会場：2014日本放射化学会・第58回放射化学討論会B会場（名古屋大学）

参加者数：19名

●放射化分析分科会

1. 各施設の現状報告

（1）原子力機構

原子力機構の笹島氏より原子力機構の施設についての報告があった。JRR-3の修理は24年度に完了した。JRR-3再起動については機構内の審査は終了した。近い時期に国に申請することになる。JRR-3再起動は来年度中の再起動を目指したい。JRR-4は残念ながら機構改革として廃止の決定となっているため、再起動の作業は行っていない。

（2）KUR

KUR高宮氏よりKURの現状報告があった。今年度は2015年1月の運転再開は未定である。例年に近い状態を考えると来年度は上半期：6月から7月、9月、下半期：10月上旬から1月下旬の運転となる。運転パターンは5MW連続運転が可能になるように交渉したい。来年度の共同利用の公募は9月22日から開始され申請期限は11月7日（金）である。公募内容、施設は昨年度と同様とのことであった。

（3）東北大電子光理学研究センター

東北大菊永氏より東北大電子光理学研究センターの加速器の現状報告があった。2013年12月より共同利用再開され、震災前と同様な水冷照射設備（10-50 MeV）で実験が可能である。26年度8件が申請されており、随時利用制度もある。

（4）J-PARC-ANNRI

原子力機構の藤氏からJ-PARC ANNRIの現状報告があった。J-PARCは今年度中に出力500kWになる予定である。ANNRIのアップデートとしては、検出器のノイズへの対応、サンプルチェンジャーの更新、BG低減化をはかるためにLiFタイルを設置する準備をすすめている。LiFタイルの設置は、LiFタイル納入が間に合わなければ来年度初頭になる。またJ-PARC ANNRIの装置共用化を目指したい。

2. ANNRI装置共用化について

大学側ユーザーの立場から海老原氏（首都大）よりコメントがあった。装置共用化とは大型設備のバックアップを法で規定するものである。申請を認められると国からバックアップとして適切な利用支援が実施される。CROSSによるユーザーサポートが受けられる。

J-PARC MLF ビームライン23本中5本がすでに共用化されている。指定を受けるにはユーザーからの要望が重要であり、昨日のANNRIセッションは約40名が参加しており、潜在的なユーザーも多いことが予想できる。

●放射化分析研究会総会

1. 幹事選挙結果の報告

選挙担当の海老原幹事（首都大）から幹事選挙の結果が報告された。今期の代表幹事は松尾基之氏（東大）が継続して就任する。今期から新たに副代表幹事、渉外担当幹事が設けられ、副代表幹事は三浦氏

(産総研)、渉外担当幹事は海老原氏(首都大)が就くことになった。その他の会誌担当等の幹事の割り当ては今後の幹事会で正式に決定する。

2. 会計報告

会計担当の澤幡幹事(東大開放研)の報告を海老原幹事が代理で報告した。また会計監査の結果、会計報告は適正との報告があった。会計の継続事項として預貯金の利子を確認する必要がある。

3. JASIS2014 活動報告

行事担当の三浦幹事から JASIS2014 での活動報告があった。今年度は9月5日午後「加速器を用いた元素分析法/放射化分析法」と題した研究会を開催した。参加者は17名であった。本企画については2011年より継続して実施してきたが、放射化分析研究会の活動としては今年度で終了したいとの提案が担当幹事よりあり、質疑の結果了承された。

4. 連絡事項

(1) KUR 専門研究会

今年度の KUR 専門研究会は11月19日(水)に開催される。終了後、放射化分析研究会拡大幹事会を開催する予定である。

(2) Dr. John Bennett (ANSTO) 講演会

11月12日(水)に東大原子力専攻主催の研究会でオーストラリア ANSTO の Dr. John Bennett の講演会が開催される。

報告：三浦勉(産業技術総合研究所)